

● 勝山市公共施設等総合管理計画について

山田安信
議員



そのほかの質問

- ・参議院選挙の争点が地方自治体に及ぼす影響について
- ・勝山市観光まちづくり株式会社について

一般質問

問 ①計画では「現在の公共施設総量を維持し続けるのは、財源的に非常に困難である」としているが、どの程度の財源が不足し、どの程度の削減が必要と試算したのか。

②山岸市長は、新体育館だけでなく、旧まちづくり交付金事業、まほろば見通しが甘くて解体した旧市民活動センター、長尾山再整備、ホテル改修など数々の大型公共事業を進めてきた。この計画は直近10年間の投資を今後も続けられるとしているが、こんな箱物事業をさらに延々と続けるのは不可能ではないか。

③山岸市長の箱物行政が、持続不可能な事態を招いた一因であるとの認識はあるか。

④計画では小中学校の再編に言及しているが、学校の建て替え費用が捻出できないという認識なのか。

答 ①施設の更新や大規模改修に充てる経費の額は、年平均で約17億円。施設の更新・大規模改修の経費には、道路や橋梁といったインフラ施設も含まれており、それらを削減することは現実的に困難なので、経費の不足額は公共施設で対応することとして試算した。その結果、40年間の総額で公共施設の更新・大規模改修経費、約569億円から374億円、約66%の経費を削減する必要があるとの結果となった。

②昭和40年代から昭和50年代に建築した施設の更新時期と、昭和60年代から平成初期に建設した施設の大規模改修時期が重なり、中長期的な施設更新経費等の見込みが大きくなっており、議員の指摘は当たらないと考える。

④公共施設等総合管理計画の策定に当たり、総務省が示した指針では、施設分類ごとの管理方針を記載するよう求めている。そのため、全体面積の4割を占める学校施設について方針を記載する必要がありと判断した。内容は平成25年度にとりまとめた中学校再編に関する方針を再掲したものとなっている。本計画の中で、学校の建て替え費用が捻出できないなどの記載は一切無く、議員の指摘は当てはまらないと考える。

乾
章俊
議員



● 観光振興について 一人材育成一

● 勝山橋上流の鉄塔基礎の撤去について

● 公共施設のマネジメント 一学校プール一

そのほかの質問

- ・防犯対策について 一熊本地震に学ぶ一

一般質問

問 観光産業をしっかりと支え、雇用を生み出していく産業に育てていくには次代を拓き、けん引する力を持った地元の若い層の人材育成、養成が重要。国もIT、観光、農業等の成長分野でのけん引役を担う人材育成が早急に必要だとして、実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関の創設を検討している。当市として、学校教育の場で経済裾野が幅広い、新しい観光産業について学び、興味、関心を持っていただく産業教育の取り組みを強化すべきと考える。如何か。

答 市内の学校では、観光に着目した様々な活動を行っている。さらに勝山市において観光の産業化が進められれば、子どもたちにとっても大きな興味関心をひく刺激にもなる。それにより将来的にもそのような道を選択する。そのような観点から今後学校教育を進めていきたい。

問 勝山橋40メートル程上流の流れの中に、醜いコンクリートの塊が目に入る。清く澄んだ九頭竜川の流れ、品格のある山々の自然風景はとても美しい心が和む。私達が自慢し誇りとする風景である。環境問題や景観の重要性が求められている今日、あの残骸は周辺の自然風景とはなじまない。防災上の視点もある。管理者に撤去をお願いすべきと考える。

答 より良好な水辺景観を創出できるように鉄塔基礎を撤去できないか福井県と協議していく。

問 マネジメントの意味は資源・資産を管理し、経営上の効果を最適化しようとする手法のこと。当市には、322の公共施設があり、その維持費は17億円。その内、38.6%の107施設が学校教育施設。人口減少、少子化が進む中、学校施設も維持管理、運用について十分検討すべき時代になった。そこで、提案したい。当市にはすばらしい市営温水プールがある。生徒数が少ない学校プールは市営プールを活用する方法での授業ができないか。

答 今後、大規模な改修が必要になった段階で、プール学習を勝山市営温水プールで実施できないか検討していく。